



Data

監督: アラン・ゴミス

出演: ヴェロ・ツァンダ・ベヤ/ガ
エダン・クラウディア/パ
ピ・ムカパ/カサイ・オール
スターズ

■ショートコメント■

◆公式ホームページによれば、本作のイントロダクションは次の通りだ。

Introduction

~~~~~

ベルリン国際映画祭銀熊賞(審査員大賞)、  
全アフリカ映画祭(FESPACO)最高賞受賞!

冒頭10分。あなたはもう  
キンシャサの夜に投げ込まれている。

ざわめく声、熱気。人いきれまで映し出すかのようなカメラ。ワールドミュージック界の雄/カサイ・オールスターズの鮮烈なグルーブ。冒頭から一気に、キンシャサの夜に投げ込まれるような興奮! いまフランス映画界でも注目されるセネガル系フランス人監督、アラン・ゴミスの傑作は、「幸福」という名前を持つ歌手フェリシテの物語。2017年ベルリン国際映画祭で銀熊賞審査員大賞と全アフリカ映画祭(FESPACO)最高賞に見事輝いた。熱狂的なエネルギーが満ちる街と聖なる森の間。カオスとやさしさ。相反する極端なものが同居し、人々の生き方も生きる術も、他の大陸の観客の常識を越えていく、言葉にできない魅力。自然や野生のアフリカではなく、社会派のアフリカでもない。アフリカを愛する人たちが「これこそアフリカ」と太鼓判を押す、愛とリアルに出会ってください。

◇ ◇ ◇

ベルリン銀熊賞に輝くセネガル系フランス人監督  
アラン・ゴミスの美しい映画。

監督は、本作でベルリン国際映画祭銀熊賞審査員大賞に輝き、アフリカ映画で最も榮譽ある全アフリカ映画祭FESPACOでも史上初めて2度目のグランプリを受賞したセネガル系フランス人のアラン・ゴミス。今やフランス映画界で最注目監督となったゴミスの才能とともに、主役のフェリシテを演じたヴェロ・ツァンダ・ベヤの圧倒的な存在感と美しさも必見です。

◆公式ホームページによれば、本作のストーリーは次の通りだ。

## Story

~~~~~

お金だけがすべて。だからタフに生きてきた。 そんなフェリシテが見つける幸福とは？

コンゴ民主共和国の首都キンシャサ。この街は優しいだけじゃ生きていけない。バーで歌いながら、女手ひとつで息子を育てている歌手フェリシテ。その名前はフランス語で“幸福”の意味。人生は彼女に優しくないけれど、歌うときだけ彼女は輝く。そんな彼女に気があるのは、バーの常連のタブーだ。ある日、フェリシテが目覚めると直したばかりの冷蔵庫が壊れていた。同じ日、一人息子サモが交通事故で重傷を負う。連絡を受け病院に急ぐが、医者は彼女に告げる。「前払いでないと手術はできない」。手術代を集めるため、フェリシテは、親族や別れた夫、以前お金を貸した男女、最後には見ず知らずの金持ちのボスを訪ねるのだった。誇り高く、自分を折ることができない彼女の中で何かが壊れていく。絶望から歌さえ歌えなくなるフェリシテ。夜の森を彷徨うフェリシテが見つける幸福とは…。

◆ミュージシャンの岡村靖幸氏の名前だけは知っていたが、その彼が本作のマナーコマーシャルに初挑戦し、11月11日から映画館限定で公開されたため、私はそれを10回以上見ていた。そのことが本作鑑賞の大きな動機になったし、新聞紙評で本作が好評（絶賛？）だったことも、それを後押しした。しかして、本作冒頭に登場するのは、歌手のフェリシテ（ヴェロ・ツァンダ・ベヤ）がコンゴ共和国の首都キンシャサのバーで熱く歌うシーン。なるほど新聞紙評ではこれを高く評価していたわけだが、残念ながら私にはその良さはサッパリ・・・。

◆私が高3の時に観たミュージカル映画『サウンド・オブ・ミュージック』（65年）は素晴らしく、なけなしの小遣いを使ってサウンドトラック盤（LP盤）を購入したし、映画は7回も見に行った。その他、私の高校・大学時代は、『太陽がいっぱい』（60年）、『ロミオとジュリエット』（68年）、『ある愛の詩』（70年）、『ひまわり』（70年）等々の映画がその音楽と一体になって強く印象に残っている。本作にもサントラ盤があり、ミュージシャンの岡村靖幸氏はそれを褒めたたえているわけだが、残念ながらアフリカ音楽について何の造詣もない私には、その素晴らしさがイマイチ・・・。

◆映画は、フェリシテに好意を持つ男性タブー（パピ・ムパカ）からのアプローチ（？）と、フェリシテの一人息子サモ（ガエタン・クラウディア）の交通事故の2つを軸としてストーリーが展開していくが、別にそれ自体に大層なドラマ性があるわけではない。また、本作には、『アフター・ウェディング』（06年）（『シネマルーム16』63頁参照）や『ある愛の風景』（04年）（『シネマルーム16』70頁参照）等で有名なデンマークの女流監督スサンネ・ピアと同じようにクローズアップの手法が多用されているが、残念ながら私

は本作ではフェリシテをはじめダブーやサモのクローズアップ映像にそれほど感動を覚えない。それは多分、彼女や彼らの表情の内に潜む感情を読み取りにくいのだが、そもそも、アフリカやコンゴ民主共和国の人たちの生活ぶりを全く知らない私たち日本人にとって、それはやむを得ない。したがって、本作が2017年全アフリカ映画祭グランプリを受賞したのは理解できても、2017年ベルリン国際映画祭銀熊賞（審査員大賞）を受賞したというのは、ちょっと意外！

◆習近平の独裁体制の強化とともに、「一帯一路政策」を強化してる中国は、アフリカへの経済進出が著しい。そのことは、11月23日に観た『戦狼2 ウルフ・オブ・ウォー2』（17年）でも明らかだが、アフリカ諸国は中国人には今やかなり身近な国。しかし、日本人にはアフリカはまだまだ遠い国だ。したがって、アフリカのコンゴ民主共和国を舞台とした歌手フェリシテの物語もピンとこなければ、その音楽性も十分理解できないのは仕方ない。したがって、日本での本作の大ヒットはとてもムリ……。

2018（平成30）年1月12日記